

1. 管理運営に関する基本的事項

本公園は「東京湾臨海部基幹的広域防災拠点」として位置づけられ、北半分が国営公園、南半分が都立公園として整備されています。平常時には国営公園と一体となって、災害発生に備えた各種の防災訓練や防災に関する体験・学習、訓練などの場として利用されるとともに、東京湾臨海部の緑の拠点として、魅力的な憩いの場を提供しています。一方、発災時には、指令機能をはじめ災害活動の拠点の役割を担うこととなります。

この本園がもつ役割をしっかりと認識し、『パークマネジメントマスタープラン』、『公園別マネジメントプラン』及び『公園別マネジメントプラン改定の視点と取組イメージ』で示された方針・目標等を踏まえ、以下の基本理念及び実施方針に基づき、管理運営に取り組んで参ります。

本公園の管理における基本理念

【発災時】及び【平常時】の機能の確実な発揮

発災時の機能

1. 首都圏広域防災のヘッドクォーター
2. 広域支援部隊のコアベースキャンプ
3. 災害医療の支援基地

平常時の機能

1. 平常時から活用される防災拠点機能
 - 発災時の機能発揮に備えた平常時運用
 - 災害に対応できる知・技・心の習得
2. 臨海副都心におけるアメニティ拠点機能（屋外空間）

実施方針1 基幹的広域防災拠点としての機能を確保します

実施方針2 都民の防災力向上を見据えた公園運営を充実させます

実施方針3 地域や関係機関との連携による円滑な管理運営を行います

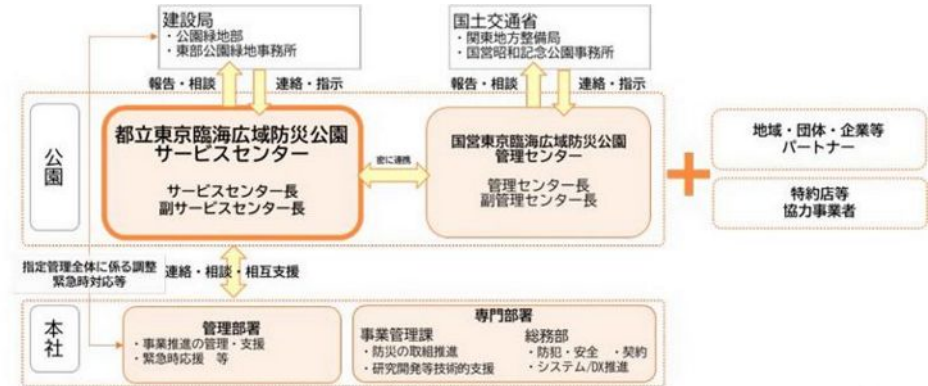
●当協会のノウハウと指定管理期間終了後の姿

長年の公園管理、特に防災公園の管理運営による多様なノウハウを活用し、本公園を発災時の機能を的確に発揮させるように管理するだけでなく、平常時には地域の方の憩いの場となり、都民の防災力向上のための拠点となる公園づくりを行います。

指定管理期間が終了する4年後には基本理念である、【発災時】及び【平常時】の機能を確実に発揮できる公園となるよう国営公園と一体となって管理を推進していきます。

2. 人員配置計画等（組織体制・指揮命令系統と役割分担）

- SCには管理運営責任者としてSC長を配置し、国営東京臨海広域防災公園管理センターと密に連携しながら、地域に根差した公園の管理運営を実施
- 本社に本公園を管理する部署を置き、地域特性を踏まえた戦略的な公園運営、エリアマネジメント、事業推進を指揮・監督



組織体制図

- 大規模震災発生時の状況連絡や被災状況調査、緊急災害現地対策本部設置等を確実に行うため、東京都公園協会本社災害対策本部が現地の活動支援
- 参集者は、国営公園の統括責任者、業務責任者、業務担当者、利用促進担当者のほか、近隣に住居のある協会職員を参集者に指定し、万全な体制を構築
- サービスセンター（国営公園と共用）と東京都公園協会本社災害対策本部に、災害時に信頼できるMCA無線を配備し、日々の無線訓練を通じて確実な情報伝達手段を確保



緊急時の業務実施体制

3. 運営管理計画

(1) 都立公園の管理運営についての実施方針と具体的な取組

本公園は「東京湾臨海部基幹的広域防災拠点」として位置づけられ、広域的な救助活動や災害対策活動の核となる現地対策本部機能を担うこととなります。

また、本公園が位置する立地特性上、都市生活の場、居住機能、緑の拠点等、幅広い役割が期待されています。

本公園のマネジメントプランに記載されている以下の4つの目標ごとに取組を推進していきます。

- 東京 2020 大会をレガシーとして継承する都立公園
- 地震災害時への対応のため、防災機能を強化・充実した都立公園
- 水と緑のネットワークを形成する都立公園
- 都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園

(2) 質の高いサービスを提供するための具体的な取組

1) 体験型防災プログラムの展開

- 「りんかい公園防災フェスタ」の開催
- 目指せ！防災クイズ王 クイズ専門家が出題！

2) 「防災×アウトドア」を打ち出し、

新たな利用者層を取り込む魅力づくり

- 防災キャンプひろば
- 防災クッキング体験



防災アウトドア

(3) 公園の魅力向上と利用促進を図るための自主事業等の提案

民間企業や専門家等と連携し、賑わいを生み出すイベントやサービス提供等を実施し、公園の魅力向上や地域の活性化に繋がります。

1) 自主事業財源を確保する販売等の取組

- 災害救援自販機の設置・再設置の検討
- イベント等への臨時売店(キッチンカー等)の出店

2) ファミリープログラムへの還元

- 子ども向けスポーツ大会
- ふれあい動物園やミニ水族館等の人気コンテンツ

(4) 東京 2020 大会レガシーを継承する取組

東京 2020 大会レガシーを次世代に継承し、ユニバーサル社会の実現に向けた取組を積極的に展開します。

1) スポーツをもっと身近に

- 健康づくりプログラムの実施
- ユニバーサルスポーツ貸出

2) ユニバーサルな社会へ

- 伝わりやすさ向上の取組
- 来園前のユニバーサル情報収集の効率化

4. 施設維持管理計画

(1) 適切な維持管理を行うための取組

公園とまちの魅力を創出する「～利用者を笑顔にする維持管理～」を行います。利用者を笑顔にする維持管理の方針

- 地域に愛される景観創出や、安全・安心・快適な公園づくりに取組みます。
- ユニバーサルデザインに配慮した施設の維持管理を行います。
- 施設の長寿命化や緑の景観形成など、長期的で将来を見据えた計画的な維持管理を行います。

(2) 事故、自然災害及び感染症などの社会課題への対策・対処するための取組

平常時から事故や災害に備え、緊急時は利用者の安全第一に迅速かつ的確に対応します。

- 事故や災害による被害を未然に防ぐための安全対策(KY ミーティング等)
- 気象災害・震災・事故・感染症に対するタイムラインによる組織的対応

(3) 施設補修、施設改良に関する要望への取組

総合的観点から優先度を評価し、効果的な補修・改良に積極的に取り組みます

- 適切な工法・契約方式を採用し、迅速かつ適切に対応

(4) 公園が持つ緑の特性を一層引き出すための新たな維持管理の考え方

持続可能で効率的な管理手法により、美しい緑の空間を提供して公園とまちの魅力を向上させるとともに、効率的な管理でコストの削減を図ります。

- サステナブルで効率的な植物管理を推進
- 公園とまちを彩る、花と緑の空間演出



葛西臨海公園 ひまわり花壇

5. 基幹的広域防災拠点としての取組

組織力を活かし、事故の未然防止や被害発生時の速やかな対応に取り組み、現地対策本部が設置されることとなった際には、国営公園管理センターと互いに協力しながら、現地対策本部の活動が円滑に実施できるよう活動支援を行います。また、都の大規模救出救助活動拠点としても適切に機能させるため、防災公園グループとも連携します。平常時には国営公園の体験学習施設等と連携し、防災に関する体験・学習、訓練等を実施し、都民の防災意識の啓発を図ります。

- 現地対策本部設置時の迅速な初動対応
- 発災を想定した事前の備え
- 都民の防災意識の啓発



車椅子避難誘導訓練